

事務局からのお知らせ

新年賀詞交歓会の開催

新年賀詞交歓会は下記の通り開催する予定です。

- ・日時/平成27年1月24日(土)〈予定〉
- ・会場/水上ホテル聚楽〈予定〉

当日の講演の講師、テーマは決まっています。もし、お招きしたい方、聞きたいテーマなどがありましたら事務局までお知らせください。



編集後記

少し前の話になるが、知人に誘われ格闘技のイベントに行ってきた。そこにはゲスト解説として元プロボクサーの薬師寺保栄氏が来ており、軽妙なトークで場を盛りあげていた。やはりテレビでもある程度活躍していることもある。

終わってから薬師寺氏と握手してもらい、少し話をする事ができた。そのとき自分は、今からちょうど20年前の12月4日の、「世紀の一戦」と言われた辰吉丈一郎とのWBC世界バンタム級タイトルマッチを思い出していた。その試合は因縁があり、そして壮絶な打ち合いとなり、それを制して辰吉有利の下馬評を覆して薬師寺が判定で勝利した。自分は当時、辰吉を応援していたが、あまりのすごい試合にテレビの前で感動のあまり放心状態になっていたことをハッキリ覚えている。このすごい試合をした1人を目の前にして胸にこみあげてくるものがあり、不覚にも何を話したか全く覚えていない。

「世紀の一戦」の後、薬師寺は数戦後に防衛に失敗し、20代で引退した。一方の辰吉はその後も数多くの試合を重ねている。しかし、たまにテレビに出て、呂律の回らない辰吉を見ていると本当に痛々しく思う。ファンに数々の感動を与えた激闘が、皮肉にもパンチドランカーの症状を引き起こしてしまっているようだ。「世紀の一戦」を戦った2人の今のコントラスト(ダメージの少ない薬師寺、感動を与えたが大きいダメージを負った辰吉)を思うと何とも言えない虚しい気分になってしまった。(竹沢)

会報

造園群馬

No.88 平成26年11月13日

発行 一般社団法人群馬県造園緑化協会
前橋市朝日町3-12-20 TEL.027-243-5693
編集 月刊ヴィアン編集部
前橋市問屋町2-3-5 TEL.027-289-2500
印刷 小島印刷株式会社
伊勢崎市西小保方町501-4 TEL.0270-62-3298

国指定
重要文化財

彦部家住宅

桐生市広沢町6丁目877番地



2町歩を超える広大な敷地には、イチヨウ、ムクノキ、カシほかさまざまな樹種の巨樹がそびえる。写真正面は長屋門。その右手に見える屋根は「冬住み」(隠居室)。

広大な敷地に佇む歴史の面影

彦部家は7世紀後半、天武天皇の皇子高市親王を祖とする旧家で、永禄4年(1561)に太田金山城主由良成繁から千匹の地を賜り、現在地へ居を構えた。以後17代を数える。

江戸時代には帰農するが、古くから染色を営み、黒織子を織りだすなど、桐生でも有数の織物経営者となった。

手臼山麓に広がる東西約130メートル、南北約160メートルの広大な屋敷地は、建物群、竹林、庭園、果樹園、櫓(やぐら)台などからなる。建物では、長屋門、主屋、染色工場、隠居室、文庫倉、穀倉などの重要文化財が静かな佇まいを見せているが、このほか旧織物工場、旧医務室、旧寄宿舎などが、数百年も積み重ねられた深く長い歴史の姿を伝えている。

主屋は平成7年10月から全面的な保存修理工事がおこなわれ、平成10年6月に竣工した。土間から見えない2室は、主屋に住みながら保存していくために修理前と同じ状態に整備してある。ほかの建物も修理がおこなわれ、平成12年12月に完成している。

織物業を営んでいた大正時代に建築された女工寄宿舎や医務室は、平成24年11月にぐんま絹遺産に登録されている。

問い合わせ 彦部篤夫 TEL.0277-52-6596



マダケとモウソウチクの林が広がり、この奥には稲荷神社や弁財天が祀られている。



主屋。柱や梁などの材料の使い方や技法、工法などに、近世初期の古民家に見られる要素がすべて含まれている。1580年創建、1650年前後に改築。うまやを併せ持つ土間、広間、表座敷、奥座敷、裏座敷、納戸からなる。



1本の木が分かれたのではなく、3本の木。左からムクノキ、シラカシ、エノキ。



櫓台の横下方にある石垣の築手口。石垣は矢笄のような珍しい積み方。



二間取りの隠居室「冬住み」。東側の下屋に土間と台所が設けられている。

月刊ヴィアンは、子どもや家族と街遊びや楽しい時間を過ごしたい、アクティブユーザー向けのフリーペーパーです。

- 歴史や風物詩の探訪といった巻頭特集、グルメ、美と健康、旅、医療Q&A、お得なクーポンなど、旬な情報を満載。
- 人物や歴史にスポットを当てた「ぐんまの偉人」を紹介。
- ラジオ番組「ラジ*ヴィアン」の放送が、月刊から週刊へと変わり昼の時間を利用し、幅広い読者層を得ています。

- ☆県内発行部数22万部
- ☆毎月、前橋・高崎を中心に、無料でご家庭へお届け
- ☆定期購読も好評受付中
- ☆置き本スポットはけやきウォーク前橋、JR高崎駅、ベイシア各店など

ラジオ版Vian「ラジ*ヴィアン」は、FM群馬で毎週木曜日12時55分オンエア

Vian

広告掲載のご用命はお気軽にどうぞ
月刊ヴィアン
前橋市問屋町2-3-5 問屋町ビル4F
TEL 027-289-2500 FAX 027-289-2501
Eメール vianweb@vian.co.jp

ヴィアンの誌面がホームページで読めるようになりました。<http://www.vian.co.jp>



第27回安全衛生大会開催

●とき／平成26年10月10日(金)午後2時 ●ところ／前橋地区高等職業訓練校



細かな説明も丁寧かつスムーズにこなしていく、司会の福田副会長。



にこやかに挨拶する武井会長。



表彰状を読みあげる武井会長と、受賞者久保田さん。



受賞の喜びを語る久保田さん。

よく晴れた秋空の広がる10月10日、第27回安全衛生大会が、前橋地区高等職業訓練校で開催されました。

福田副会長の流暢な司会により、開会の言葉に続いて武井会長の挨拶がおこなわれました。

表彰では、みどり支部の久保田英美さんの事業所「久保田植樹園」が、労使協力して職場の安全衛生確保に積極的な努力を払い、その実績が他の事業所の模範となったことをたたえられ、表彰されました。

久保田さんは受賞の挨拶のなかで「事故、怪我は、会社にも家族にも迷惑がかかりますので、みなさんも事故や怪我のないようにがんばってください」と述べていましたが、まさにそのとおりで、日頃から十分に注意し

ていきたいものです。

安全講話では、群馬労働局主任産業安全専門官の長谷川隆雄氏が、群馬県内の労働災害による死傷者数が今年度にはいって増加していることや、9月8日時点の状況として、同時期の比較では平成19年以来の深刻な状況に陥っていることなどが題材として取りあげられました。死亡災害の具体例や労働災害防止のための取り組みについても触れ、講話の最後には長谷川氏が質疑応答の時間を設けるなどの配慮をしてくださいました。

労働災害をなくすためには、労使が一体となって取り組んでいくことはもちろんですが、結局は個人個人の意識の持ち方が大切ということにつきますようです。



群馬労働局主任産業安全専門官の長谷川隆雄氏



樋下田さんは熱中症の対応策について質問。



講演内容は「生活習慣病の予防と対策」。講師の中西さんはプロジェクターを駆使して熱心に説明し、参加者のみなさんは興味深く聞き入っていました。



武井会長から記念品が贈られ、原田専務理事からお礼の言葉がかけられました。



武藤副会長が閉会の挨拶をおこない、大会は滞りなく終了しました。

プログラム

開会	司会／福田副会長
開会のことば	福田副会長
会長のあいさつ	武井会長
表彰式	久保田植樹園(みどり支部)
安全講話	群馬労働局 主任産業安全専門官 長谷川隆雄氏
講演	「生活習慣病の予防と対策」 群馬県立県民健康科学大学 教授 中西陽子氏
閉会のことば	武藤副会長
終了	福田副会長

懇親会(どんさん亭)

続いておこなわれた講演は「生活習慣病の予防と対策」で、講師は群馬県立県民健康科学大学看護学部の教授、中西陽子氏でした。

生活習慣病とは何か、そして、それに大きく関係するメタボリックシンドロームを予防すること、すでに該当している場合には改善しよう、という内容でした。40歳代以降が該当していたかつての成人病とは異なり、生活習慣病は年齢とは無関係。生活習慣が引き起こすさまざまな病気の総称です。

メタボリックシンドロームは、高脂血症・高血糖・高血圧の3種類の症状に肥満が加わった状態です。40歳から74歳の年齢層では、男性では2人に1人が該当して

いるといえます。

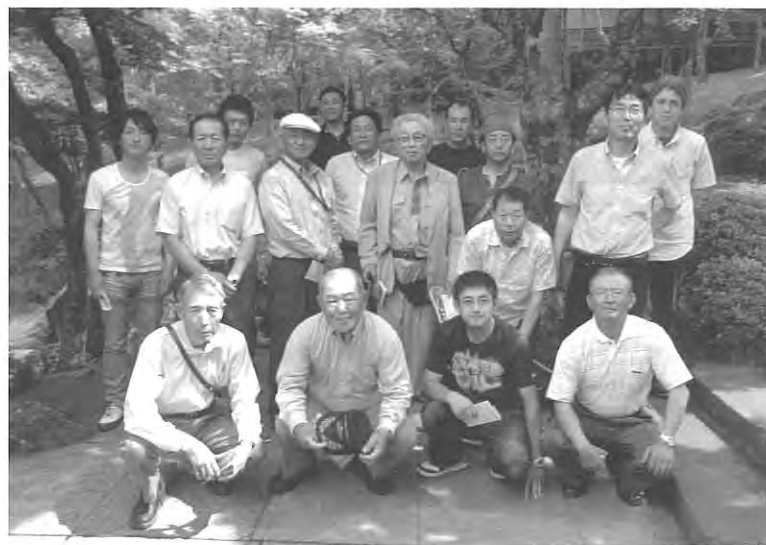
この講演でもやはり質疑応答の時間が設けられ、数人の会員から、睡眠や食事、カロリーなどについて質問が出されていました。身近な問題だけに、みなさん関心が高かったようです。

中西氏には武井会長から謝礼が贈られ、続いて原田専務理事から、たいへんわかりやすいご説明をありがとうございましたとの感謝の言葉が送られました。

最後に武藤副会長から閉会の挨拶があり、すべてのプログラムが無事終了しました。

大会終了後はどんさん亭片貝店へ移動し、懇親会が開催されました。

箱根方面に研修旅行



箱根美術館の前での集合写真

6月29日(日)と30日(月)の2日間の日程で、箱根方面へ研修旅行に出かけました。参加会員は16名でした。当支部の研修旅行はほぼ全員の会員が参加しますが、これはとてもありがたいことです。

1日目は、まずさいたま市の大宮盆栽美術館に寄り、高度な技術に洗練されたさまざまな盆栽を見学しました。バスへ戻る途中、近くのお店の前に立派な臥竜垣があり、こ



立派な臥竜垣に興味深々



臥竜垣の前で集合写真



内側から見た日本庭園



盆栽美術館の見学



箱根美術館のこけとモミジ

ちらの方にもみな興味津々でした。その後伊豆に行って浄蓮の滝などを観光し、1日目が終わりました。

2日目は最初に小田急山のホテルに向かい、庭園を見学しました。ここは岩崎小弥太(三菱財閥第4代総帥)の別邸だったところに建てられ、当時の面影が色濃く残っていることでも知られています。そのため、細部まで手入れが行き届いており、非常に見どころの多い庭園で、とても勉強になりました。

それから箱根美術館の日本庭園を見学しました。ここでは苔庭が印象的でした。そこに植えられているモミジが立派なのはもちろんですが、とにかく苔が非常に美しかったです。結果として適度に光が入り、そして苔が美しく育つよ

うなモミジの剪定が素晴らしいからでしょう。おそらく、管理している方は相当な腕の持ち主なのであろうと私は思います。そして、さまざまな思いを胸に帰路につきました。

今回の研修旅行はさまざまな顔を持った庭園などを見学することができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。今後は、今回の研修旅行で感じたことを仕事に生かせるように頑張りたいと思います。

技能検定実技試験が行われました!

平成26年8月27日から29日までの3日間(ただし、29日は要素試験のみ)にわたり、技能検定の実技試験が群馬県職業能力開発協会の検定場にて行われました。毎年、各都道府県の会場で一斉に行われ、群馬県の受験者は1級が33人で2級が25人でした。受験人数は昨年と比較して少ないようでした。

当協会からも技能検定の試験を行うにあたり、6名の会員が検定員、あるいは補佐員として技能検定の実技試験に携わっています。

実技試験の課題は、1級、2級と時間内に3m×2mのスペースに庭園を作ります。主に、竹垣(1級は建仁寺垣、2級は四つ目垣)を組み、石を敷いて、そして樹木を植栽し、その樹木を剪定する流れです。

実技に望んでいる受験生は細かい技術や作業が要求され、真剣そのものでした。また、実技試験の課題として作成した庭はどれも本当にレベルが高く立派なものでした。ちなみに、今回の試験のトップを務めた根岸憲一会員に話



受験生の方々は真剣に取り組んでいます

を聞いたところ、実技試験の検定員が審査するチェック項目は80以上にのぼり、審査する側も責任重大であるとおっしゃっていました。

今回の技能検定に見事、合格された方は1級が9人で、2級が19人でした。おめでとうございます!



この区画にこの材料で庭を作ります



試験は細かい技術が要求されます



少しの狂いも許されません



完成まであと少し!



技能検定を終えて。検定員と補佐員の記念撮影

建設業と社会保険

みくに労務管理事務所
特定社会保険労務士 飯島明美

平成24年から国土交通省の社会保険未加入対策が始まり、平成29年度までに建設業許可業者の100%加入をめざしています。

なぜこのような政策がはじまったかの理由については、建設業における若手の人材の減少を改善し、最低限の福利厚生(社会保険)を確保して、他産業に劣る就業環境を改善するためとされています。

具体的な方法として、行政による未加入のチェックが平成24年11月から始まり、建設業の許可・更新時、経営事項審査(経審)時等に加入状況を確認し、未加入の場合には加入指導が行われることになっています。これらの情報は建設業担当部局から保険担当部局へ通報されることとされています。

さらに、国は元請企業を通じて下請企業への周知、啓発、指導、保険加入者の優先活用を求めるほか、関係者一体となった取組として、建設業関係登録団体73団体等と未加入対策推進協議会を立ちあげた取組も進めています。

さて、未加入対策が進められている社会保険は、大きく分けると労働保険(労災保険と雇用保険)、社会保険(医療保険と年金保険)にわかれます。

労働保険は原則として従業員が一人でもいれば適用となります。一方、社会保険は事業所が法人または個人営業で、常時使用する従業員が5人以上の場合は厚生年金と健康保険に加入義務がありますが、個人営業で従業員4人以下の場合は国民年金と国民健康保険の加入となります。

したがって、社会保険未加入の対象は一律でないというわけです。あなたの事業を上記に当てはめてご確認ください。

気になる事業主負担の保険料ですが、建設業の雇用保険の事業主負担は給与支払額の1.05%、厚生年金は8.737%、健康保険5.835%(含む介護保険)となります。月給20万円の場合で約3万円の負担になりますので、国民健康保険と国民年金で済む場合とでは事業主負担は重くなります。国は企業の負担を軽減するため標準見積書により法定福利費を別枠で請求する方法も進めています。今後適正価格でご契約いただき、建設技能労働者が夢と希望をもって働ける環境が整うことを願います。



エッセー 木々は好日 27

モミジの所属はなに科のなに属?

新木としろう (クリエイター・漫画家)

すっかり秋も深まり、紅葉前線もかなり平野部へとおりてきた。公園や街路などがしだいに装いを変えて目を楽しませてくれるが、夏の緑と比べて紅や黄の期間は極端に短い。短くて惜しいように思えるが、短いからこそ、美しさがいっそう際立つのかも知れない。

さて、紅葉の代表格のひとつにモミジがあげられる。モミジといえば、詩や俳句、短歌はいまでもなく、歌・ことわざ・料理にまで名前が登場する。ところが、それだけの存在感がありながら、モミジという名称は存在しても、単に「モミジ」という樹種は存在しない。

植物学上でも同じで、モミジという科も属も存在しない。実は、モミジはカエデ科のカエデ属に分類されていて、カエデの兄弟姉妹のような扱いになっているのだ。「モミジ」は通称や俗称といった意味あいでの名前であり、学問的には「カエデ」と総称されている。

そんなことでは、イロハモミジやヤマモミジなどの立つ瀬がないではないか、ということになるが、そこまで理不尽な立場でもなく、園芸や盆栽などの世界では立派に市民権を得ている。ちなみにその世界では、葉の切れこみの数や形をもとにし、明確な区別の基準を設けている。たとえば、葉が5つ以上に切れこんでいて、手のひらのような形をしているもの、という決まりがそのひとつで、前記2種のほかにオオモミジという種類もある。

この3種を簡単に紹介すると、まず、モミジの代表格といえるのが、イロハカエデの異名をもつイロハモミジ。葉は3種類のうちでもっとも小さく、5つから7つの切れこみがある。大きいものでは高さ15メートルほどになる。材は硬く、ちりめん状の美しい光沢がある。材の性質上、



工芸品のほか建材にも使われ、樹皮を剥がないまま床柱に使われることもある。若葉が赤く、それが夏になると緑になる「出猩々」(でしやうじょう)、紫がかかった茶色の葉の「猩々」、枝が紅色の「珊瑚閣」などの品種がある。

ヤマモミジはイロハモミジの亜種。葉の切れこみが5つから7つというところはイロハモミジと同じだが、葉の大きさはそれよりずっと大きく、直径10センチを超えるものもある。ほかのモミジと同じく園芸品種が多く、春の芽出しに特徴がある「夕暮」や、白い斑模様があらわれる「織殿錦」、しだれの「奥州枝垂」などが有名。

オオモミジもイロハモミジの亜種だが、高さ20メートル、直径60センチになる大きなものもある。葉の大きさはヤマモミジと同じくらいだが、切れこみは多く、7つから9つもある。

材はイロハモミジと同じく硬いが、幹が太いため、楽器・家具・工芸品・フローリングなど、幅広く利用される。園芸品種としても古くから重宝され、濃い紫色の葉の「紅鏡」、芽出しが紫紅色の「野村楓」、紅葉の美しさで定評のある「大盃」、黄葉が映える「一行寺」などがよく知られている。



モミジは実生(みしょう)が得意なのか、下を見ると小さな苗がたくさん出ている。